



目次	◆ 診療科紹介(内科)	◆ 多焦点眼内レンズのご案内
	◆ 医師のご紹介	◆ インフルエンザについて

診療科紹介【内科】

小腸の病気について ～小腸カメラ検査を中心に～

副院長 辻 晋吾

当院では地域に多い食道がんや胃がん、大腸がんの撲滅に向けて、以前より上部消化管内視鏡（いわゆる胃カメラ）検査と大腸内視鏡（大腸カメラ）によるがんの早期発見を行ってきました。特に5年前からは従来の胃カメラ室を消化器内視鏡センターとして移転・拡充させてまいりました。

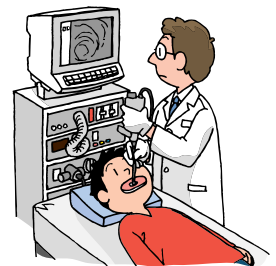
一方、お腹には食道・胃・十二指腸と大腸の間に小腸という臓器があります。消化管の中でも小腸は食道や胃を通過しかゆ状態になった食物をさらに細かいアミノ酸や糖分に分解し、栄養素として吸収している重要な臓器で、その内部の表面積を合計するとテニスコート1.5面分あると言われるくらい大きなものです。ところが、小腸は口からも肛門からも遠いため検査がほとんどできず、『暗黒の臓器』と言われていました。実際には貧血の原因になったり、悪性リンパ腫などの悪性腫瘍が手術により発見されている状態でした。

◇小腸カメラ検査（ダブルバルーン内視鏡検査）について

この状況を変えたのが今回当院で導入した、ダブルバルーン内視鏡（略称：小腸カメラ）です。この内視鏡の登場により全小腸の詳細な観察が可能となり、小腸の腫瘍や炎症、血管性病変など、胃や大腸とは異なった疾患を早期発見・治療することができるようになりました。

小腸カメラ検査は次のような症状・病気の方々にお勧めしています。

- 1) 消化管出血が疑われるものの上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）と大腸内視鏡検査を受けても異常がなく、小腸の出血性病変が疑われる場合
- 2) 小腸に病変をつくる病気（小腸腫瘍、腸結核、クローン病など）の精密検査
- 3) 小腸の通過障害（腸閉塞、小腸狭窄）が疑われる場合
- 4) 通常の内視鏡検査が困難な場合（手術後の消化管の変形、消化管の癒着があり通常の内視鏡検査が困難と言われた事のある方）



◇検査の実際

腸管の中に食べたものや便が残っていると検査ができないので前もって洗腸用の薬を服用して頂く必要があります。また病気のある場所が不明な場合などでは、時期をずらして口からと肛門からそれぞれ内視鏡を挿入し、小腸を全て調べる事があります。このような理由のため、検査は原則として入院して頂いた上で実施いたします。ただし検査自体は鎮静薬と鎮痛薬を併用する事で、比較的楽に検査を受ける事ができますのでご安心ください。検査はレントゲン装置で小腸カメラの位置を確認しながら行います。検査時間は1回あたり約90分程度です。

◇小腸カメラの長所

今まで判らなかつた小腸のがんや潰瘍、通過傷害などが判るようになったというのが、ダブルバルーン小腸カメラの最大の長所であることは言うまでもないでしょう。それに加え、小腸カメラでは、発見した病気の組織検査や、出血に対する止血処置、狭窄した部分に対する拡張術などの治療を行うことも出来ます。

以上、簡単ですが、小腸カメラについて解説させて頂きました。

近年の高齢化社会においては、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）を維持しながら元気に老いることが大切になってきています。趣味、運動、読書など生活のあらゆる場面において視覚は重要な役割を果たしています。一説によると人は情報の80%を視覚に頼っているとされています。したがって、単に見えることではなく、よく見えること、すなわち視力の質（クオリティ・オブ・ビジョン）が高齢化社会においては重要になってきています。

白内障は眼のレンズである水晶体が濁る病気です。治療は手術によって濁った水晶体を取り除いて人工の眼内レンズに取り替えます。従来はこの眼内レンズは単焦点レンズといって1か所でしか焦点が合う場所がないレンズで、術後はいわゆる老視（老眼）と同じような状態になり、近くのものを見るためには必ず眼鏡が必要になります。そのため手術をしてよく見えるようになったが、眼鏡をかける煩わしさに悩まされる方も多いのではないのでしょうか。こんな悩みを解決してくれるのが、多焦点眼内レンズです。図1のように多焦点眼内レンズは眼の中に入ってくる光を振り分けて遠方にも近方にも焦点が合うようにデザインされています。

趣味や仕事などの生活環境にあわせて眼内レンズの選択が可能な時代になってきました。多焦点眼内レンズはまだ発展途上の技術ですが、現時点で人の若いころの水晶体の機能に近づいた点ですばらしいレンズであると思います。



図1. 眼内レンズの集光イメージ

Q & A (1) 多焦点眼内レンズにはどのような種類のものがあるのですか？

屈折型と回折型があります（図2）。屈折型は遠方、中間、近方の全距離をカバーしますが、瞳の大きさに左右されます。回折型は遠方、近方をカバーし、瞳の大きさには左右されません。当科ではとくにご希望のないかぎり、回折型をお勧めします。



図2. 屈折型（左）と回折型（右）多焦点眼内レンズ

Q & A (2) 眼鏡が全く不要になるのですか？

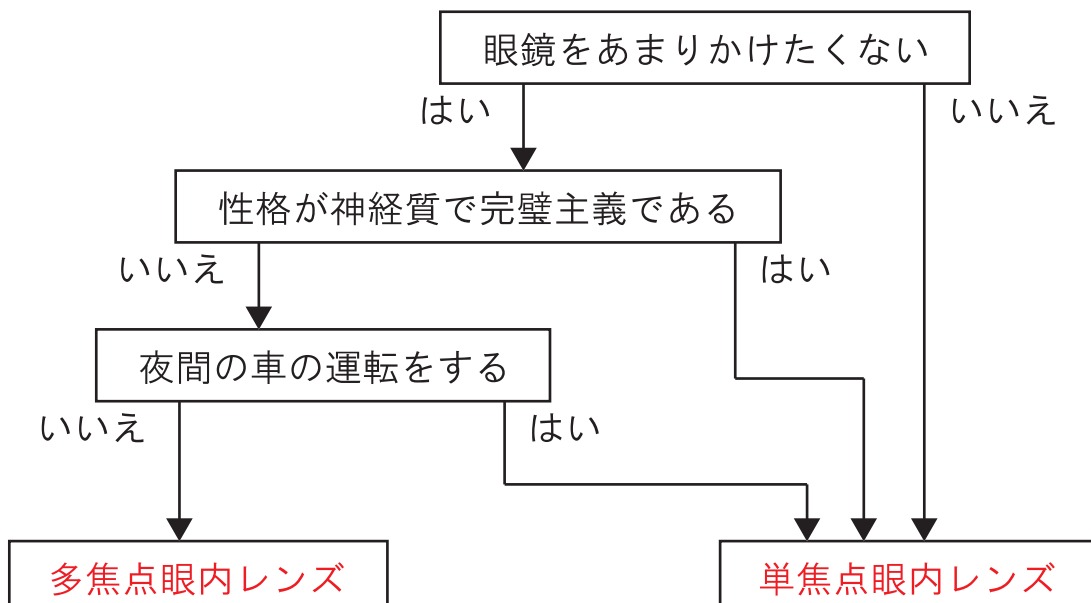
細かい文字を読んだり、長時間の読書をする場合は眼鏡をかける必要があるかもしれません。多焦点眼内レンズによって眼鏡の使用頻度が減少すると思います。ご自身が多焦点眼内レンズの適応になるかどうかは、性格的な要素にも影響されますので、ご参考までに本稿の最後にありますフローチャートをご覧ください。

Q & A (3) 多焦点眼内レンズが適していないのはどんな場合ですか？

- ・ 性格が神経質、完璧主義の方
- ・ 夜間に自動車運転をする方（ハロー・グレアという変な見え方のため）
- ・ 乱視の強い眼
- ・ 緑内障や糖尿病網膜症などの眼疾患のある方

Q & A (4) 多焦点眼内レンズの費用はどのくらいですか？

現在のところ保険適応になっていませんが、当科では先進医療が適用されます。手術代とレンズ代は自費（約33万円）となりますが、それ以外は健康保険が適用されます。

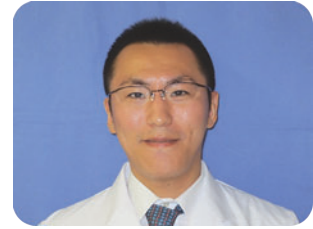




- ① 専門分野 ② 趣味 ③ 一言

松村 宣政 医員（整形外科）

- ① 整形外科
② スキー、フットサル
③ 10月より整形外科に勤務
させていただきます。



整形外科チームの若年として、外傷を中心に診療させて頂く予定です。 よろしくお願いたします。

= 新型インフルエンザについて =

（平成21年11月号より抜粋）

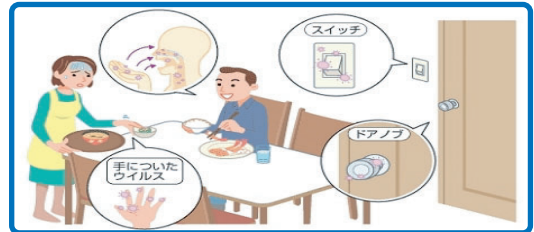
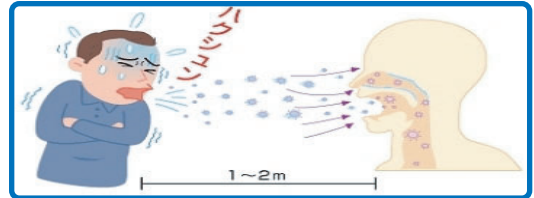
看護部感染対策委員長 村野みちよ

1. 新型インフルエンザってどんな病気？

新型インフルエンザは、新しい型のインフルエンザウイルスによって起こるインフルエンザです。主な症状は、39度以上の急激な発熱や咳（せき）、のどの痛み、関節痛などで、季節性のインフルエンザと同じです。新型インフルエンザは、ほとんどの人が免疫を持っていないため、たくさんの人に急激に感染が広がってしまう可能性があります。

2. どのように感染するの？

- ① インフルエンザウイルスは、咳やくしゃみのしぶきで身体の外に飛び出し、それを他の人が吸い込むことによって、ウイルスが身体の中に入っていきます。咳やくしゃみなどのしぶきは、空気中で1～2m以内にしか飛びません。
- ② 咳やくしゃみなどで身体の外に出たウイルスは、手などを伝って机・ドアノブ・スイッチなどに付きます。健康な人が机・ドアノブを手で触れ、かつその手で自分の眼や口や鼻を触ることによって、ウイルスが身体の中に入っていきます。



3. 感染を広げないためには？

予防の基本は

◆正しい手洗いで、手に付いたウイルスを洗い流します。

◆マスクをつけ、咳やくしゃみと一緒に、しぶきが周りに飛び散るのを防ぎます。

4. 正しい手洗い方法とは？

- ①流水で手をぬらし、石鹸をつける



- ②手のひらを洗う



- ③手の甲を洗う



- ④指先と爪の間を洗う



- ⑤指の間を洗う

- ⑥親指と手のひらをねじ洗う

- ⑦手首を洗う

- ⑧石鹸を洗い流し、きれいなタオルもしくは紙タオルで水分をふきとる。

☆感染を広げないために、一人一人が「感染しない」「感染を広げない」ことを意識することが大切です。

発行

大阪船員保険病院／地域医療連絡室

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30

TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713

http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei_tayori.html

